

さわやか通信

令和4年4月1日発行
No.25

株式会社ウェルフェアネット

会社設立 平成12年12月
代表者 代表取締役 平山正明
事業内容 福祉事業全般 筑紫地区を中心に
グループホーム 小規模多機能型居宅
介護施設の運営を主たる事業としている
基本理念 住み慣れた地域で安心して健やかに暮ら
せる老後をお手伝いします
基本方針 利用者おひとりおひとり、その人らしい
生活に日々「寄りそう」

あるがままに
楽しく
ゆったりと

さわやか憩いの家春日

利用者 Sさん



【令和4年度を迎え】



「あるがままに 楽しく ゆつたりと」の家训に沿って、方針とスタッフの心得を徹底して体现できるようにこれまで取り組んできました。

昨年はスタッフ98名が入居者・利用者からいただいた学びを実践報告としてまとめ、社員・パートの皆がリモートで発表しました。そこで感じた、ひとりひとりが考える努力をしていること、感じ方はそれぞれであつても、家训に沿って行動し続けていると実感したところです。まだまだ「寄りそう」ということに悩み、くじけそうなのが多いのですが、「人を考える努力」は惜しまずに、ケアに繋げていけるように今後も努力が必要と感じます。また、地域においても、その家训をなぜ大切に行っているのかを伝えていく発信力もつけていくようにしたいところです。

さて、新型コロナウイルス感染症と向き合い続けて3年目になりますが、オミクロン株の感染力と伝播性が強く、1月中旬から3事業所で感染状況があり、入居者・利用者・ご家族のみなさまにご迷惑とご心配をおかけいたしました。家训に沿えない対応を迫られることもあり、その中でも、な

んとか不便のないように努めようと一丸となり取り組んだ次第でした。改めて、BCP「事業継続計画」を策定して対策をたてていましたが、事前に内容を検討しておいてよかったこと、実際に起きた場合の対応も反省を含め今後に生かしていこうと思います。

今年度はスタッフの心得を改定し教育に力を入れていきます。というのも、これまで先に入社したスタッフが体現しながら教えてきたことも、根拠を含めてなぜそうしなければならぬのかを、スタッフの心得に盛り込み、継続と継承こそ「人が育つ」という事に繋がると考えています。IT化が進む中その波に乗り、ロボット事業の研究も進めていく一方で、やはり「人」としての成長こそが、これからの「さわやかテラス・さわやか憩いの家」の大きな柱になると思います。その姿を是非関わって下さるご家族の皆様、地域の皆様にも見ていただき、時には厳しい意見もいただきながら、応援くだされば幸いです。

今後とも是非、「あるがままに 楽しく ゆつたりと」の家训とスタッフの心得を体现していきますので、ご指導ご鞭撻いただきますよう、お願いいたします。

今しばらくは、自粛が続くと思いますが、皆様の健康をお祈りいたします。

さわやかテラス・さわやか憩いの家

代表 平山 正明

【社内研修 実践発表】



☆今回も社内研修でスタッフが実践発表をした中で、さまざまな視点から考えた津和崎さんの発表をご紹介します。

「暮らしの継続が生きる力になる」

Kさんは、40代で多発性硬化症を発症、病気の進行により介護が必要な状態になり「さわやか憩いの家」を利用され13年経過している。

嚥下機能の低下により、食事のたびにムセが多く食事摂取量が減り、体重減少。筋肉の衰え、関節の拘縮もみられ、膝の内側に出来た褥瘡が悪化と軽快を繰り返していた。進行性の難病のため、嚥下機能が回復していくとは考えにくく、このままの状態が続くと、入院も必要になってくるかもしれない。しかし、きつとKさんはご主人と暮らし続けたいだろう、そのためにはどうしたらよいか考える日々だった。以前、ご主人は経管栄養には難色を示されていたが、お口から食事をする事と経管栄養は併用していくことも出来ること、胃ろう造設をしておくことで今後も安定した栄養摂取ができることなど、責任者よりご主人へ説明。

ご主人はイメージが変わったと話され、ご自身でも調べられた結果、胃ろう造設を決定される。

昨年3月、福岡中央病院にて胃ろう造設。約1ヶ月の入院中、コロナ感染対策でご主人にも会えずにおられたが、オンラインで面会された時、ご主人の声が聞こえた

だけで、目を輝かせ、生気を取り戻されていた。その後、退院後の弱られた状態から徐々に以前のような表情をみせて下さる様になり、今の暮らしがKさんの生きる源なのだと改めて感じた。お口からの食事と経管栄養をご主人と協力しながら行い、栄養状態は安定しつつある。医療的ケアは増えているが、今までと変わらず自宅で過ごし、憩いの家に通っていられている。休まれる時間は多いが、しっかりと覚醒され日光浴を楽しまれるなど、活気がみられている。ご主人と一緒にいることや、いままでも変わらない環境で過ごせることが、ご本人の体調を安定させているのではと思う。

病気の進行や、老衰によつて医療が必要な場面は必ず訪れるが、介護支援と同時に医療支援も受けられることは、その方の暮らしを変えない、生きる力を持ち続けられることにつながる。小規模多機能という介護サービスは、その方の望む在宅生活を支えるためにある。いろんな支援が必要になつてきたとしても、その方の望む暮らしはどんな暮らしなのか、いつも意識することを忘れないようにしたいと思う。

(さわやか憩いの家春日 津和崎 智美)



「津和崎さんの娘さん。」

憩いで癒しをくれています。」

【第28回 日本ホスピス・在宅ケア研究会 全国大会 in 熊本】



令和3年10月16日、17日、日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会 in 熊本がハイブリッド式で開催されました。

新型コロナウイルスの状況であっても学ぶ機会が得られる大会だと感じました。

さわやかテラス大野城から、事前収録で「あなたがたがたがた」で感染症対策であるがままを考える」というテーマで、濃厚接触者となった入居者の方の対応について発表し動画配信されました。

今回の大会は、医学的な発表から、熊本地震、カフェについて、グリーンケア、家族支援、ひとり人材育成など多岐にわたる発表が行われていました。その中で、「話を聴くこと」が何より、人材育成で必要であるとの話があり、私自身を振り返り、反省とこれからより大事にしていかなければならないと学びました。

また会場で、セラピューティックケアの第一人者秋吉美千代先生と再会し、せつかくだからとスタッフの子どもにも施術してくださいました。充実した時間を過ごし勉強になりました。



(さわやか憩いの家大野城中央 井上 正喬)

【CRJ 交換研修】



災害協定を結んでいる、熊本の誠心会「夢のかけはし」の事業所へ11月18日と19日の2日間、研修に行きました。

災害時に被災現場で対応できるための体制作りを目的としており、備蓄品の保管場所、内容について確認を行いました。

事業所によつては近くに山があり、大雨や台風などの風水害の被害を受けやすい所もあれば、住宅が多く地震の被害が怖いなど、事業所がある地域の特徴を知っておくことが大事であることを学びました。以前、熊本地震の被害にあった時の話を聞いた際に、実際に災害が起きた時には準備していたこと以外に役に立たなかったと言われていたことも踏まえ、普段からハザードマップを確認し予測される被害想定から事前に準備や対応策を考えておくことの必要性を感じました。

近年、豪雨や地震の被害が増えているので適切な対応が行えるよう今後も交流を行いながら災害時の協力体制を整えていけたらと思います。



(さわやかテラス大野城中央 今村 耕平)

【介護の日のついで 認知症 あったかホームコンサート】

11月28日(日)11回目を迎える「介護の日のついで」『認知症あったかホームコンサート2021』に実行委員として参加しました。昨年はコロナ感染拡大で中止。今年はオンラインにて福岡県内外から400名を超える参加がありました。

「認知症とともに生きる社会」を誇り、味方、居場所」のテーマで大熊由紀子さんの講演や小学校の子ども達とのすてきな交流や若年認知症当事者交流会「さろ〜んちくし野」の皆さんより出来ることを出来る限りという思いを聞くことができ、感激しました。また、ザ・ヒーリングの素晴らしい音楽と共に、時代の「つながり」の大切さを感じる事のできる素晴らしいコンサートとなりました。

今回、オンラインで、いつもは会場に足を運べない方も、パソコンとテレビを繋ぎ、ピアノやバイオリン、パーカッションの演奏を聞くことができ、「知ってる曲があると嬉しかね。」と互いに話しながらリラックスして参加することができました。

(さわやかテラス・さわやか憩いの家春日 統括責任者 平原 由香)



さろ〜んちくし野の皆さん



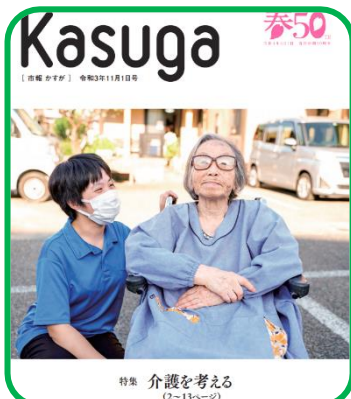
【リモートでの新たな取り組み 地域運営推進会議編】

2ヶ月毎に開催が国で義務付けられている地域運営推進会議は、コロナの影響から、書類を送付しアンケートを書いて頂くことで会議を開催してきました。

その後、令和3年9月に初めてリモートで地域運営推進会議を行いました。書面だけに比べ開催に苦労はありますが、画面越しでも対面できる方が遥かに良いなど素直に思います。それは会議だけでなく、入居者さんと家族の面会・入院中の方との面会でも同様に感じました。有効に活用しながら、新しい形を取り入れていこうと思います。

(さわやか憩いの家春日 光武 祐一郎)

【広報誌がすが】



特集 介護を考える (2-13ページ)

春日市広報誌の表紙を、さわやかテラス春日の安達静子さんとスタッフの小畑智哉が飾りました。介護を考える特集として、13ページに渡り介護について記事がありました。関心を寄せていただけて感謝しています。

(さわやかテラス春日 長野 太一)

【功労賞 山城智瑚さん】



平成15年に生まれた山城智瑚(とき)さん。さわやかテラスの成長と共に、親と一緒にさわやかテラスに来て過す土壌を作ってくれた先駆者として、18歳を節目に功労賞を送りました。智瑚さんが「ただいま」と帰ってきてくれたので、他の子たちも「ただいま」と保育園から小学校から中学校、高校、大学の子までテラスや憩いに帰ってくる事ができました。

そんな智瑚さんに質問しましたQさわやかテラスで、お年寄りから声をかけられて、記憶に残っているエピソードは？

A「夏祭り中、子ども達でかくれんぼしている時におばあちゃんに声かけられて、会話しよつたら見つけた話。」

Q母の仕事する背中を見て、幼少期で思ったこと、今18歳で思うこと。

A「幼少期、いろんな所に行く仕事なんだなあと思っていた。今、多くの人と多くの話しをしていて信頼されてるんだなと思う。」

☆智瑚さんの活躍を願います。



—あの日、あの時—

さわやかテラスで働きはじめて丸4年が経ちました。以前は特養に勤めていて、自分らしく生活したいと望む方を数えきれない程みてきました。そのことを少しお話します。

男性入所者のMさんは暇を持て余し、徐々にタバコの量が増えていきました。1日に10本弱の喫煙でしたが体に悪いからと1日5本に制限され、そのストレスから感情がコントロールできなくなり、精神科病院に入院となりました。数ヶ月後、退院されて戻つてられた時は心身ともに病んでおられ、程なくして亡くなりました。

また、女性入所者のOさんはショートステイ利用を経ての入所でした。「家に帰りたい」という思いが強く、ご家族もまめに会いに来て下さっていたのですが、自分の思いが通じないことから、大きな音を立てたり、自分の衣類を破いたり、排泄物を扱ったりをくり返され、精神薬服用となり、Oさんに合う薬を色々試しているうちに元気がなくなり永眠されました。

どちらの方ももし、さわやかを利用されていたら、入居されていたら、もっと自分らしく穏やかに過ごされてあったのではないかと胸が痛みます。

さわやかスタッフの心得にある、「ご本人らしさを失わないように努める」「人」を考える努力を

する。本当に言おうとしておられることを理解するよう努める。という言葉があります。テラス中央の尊敬する先輩スタッフは人として真摯に入居者の方と向き合い、私が大事だと思うこの心得の3点をしっかりと実施されて、とても勉強になります。

私は特養で技術や介護一般論を学び、さわやかで人としてどう接するかを学ばせてもらっているように思います。

向き合いたくても時間が許さないことも多くあります。でもそういう時ふと気づくと、心配そうに入居者さんがみえています。私が入居者さんを想うように、入居者さんも私を想ってくれている一面をみると「頑張ろう！」と励みになります。

これからも自分らしく暮らしていけるお手伝いをさせて頂き、自分自身も成長していきたいです。

(さわやかテラス大野城中央 石田 孝子)

☆輝く人☆

高校3年間、学業と部活でラグビーをしながら、さわやかテラス二日市にアルバイトに来てくれていた山田智弘さん。この度工業系に就職が決まり、みんなでお祝いしました。



編集後記

「この子がおるけん、大丈夫。みてもらう。」祖母が危篤と連絡があり、私が病室で付きそって居た時に看護師さんに言っていた言葉です。祖母は「家に帰るけん、これば（点滴）外して」と看護師さんについて、「もう少し良くならん」と家には帰れんよ」と言われ先ほどの言葉を言っていました。私が介護の仕事をしているからなのか、たまたまそこに私がいて目に入っただけなのかは分かりませんが、その時私を頼りにしてくれたことが凄くうれしかったのを覚えています。呼吸をするのがやっとな様子で、体から出ている管を抜こうとしたり、ベッド柵を取ろうとしたりと何とかして病院から抜け出そうとしていました。その後家に帰ることは叶わず、転院先で家族に見守られながら、息をひきとりました。

幾度の危篤の知らせを受け祖母と病室で過ごした時間のなかで、自分がどんなにつらい状態でも、「自分の家に帰りたい」「ここは居場所じゃない」という家や家族を思う気持ちは消えないことを教えてもらいました。テラスに入居されている方も「家に帰らんば」と言われることがあります。日頃の関わりの中でテラスが居心地の良い場所となり、安心できると思っていただけのように祖母から教えてもらったことを無駄にせず、入居者さんに寄りそっていきたいです。

(広報担当 田中順子・宮内幸・園田真澄・龍泰斗・種子島 ことつ)

ウェルフェアネット令和4年度の活動

- 社外研修・セミナー参加
日本認知症ケア学会
日本ホスピス・在宅ケア研究会
デンマーク研修・台湾研修
日本セブティックケア協会
全国小規模多機能居宅介護事業者連絡会
九州地区での各種研修
他事業所との合同研修

- 各団体との関わり
福岡県高齢者グループホーム協議会
筑紫地区やさしい福祉結の会
日本介護福祉士会
福岡県介護福祉士会
筑紫地区小規模多機能連絡協議会
大牟田市介護サービス事業者協議会

- 地域との関わり
各地域の自治会・育成会・老人会等
地域の保育園・小学校
民生委員・福祉委員
各地区の地域包括支援センター
筑紫野市介護を考える家族の会
春日市介護をかかえる家族の会「ひだまりの会」

- 相談会や講座開催に積極的に協力
認知症サポーター養成講座
社外実習生の受け入れ
公民館活動との連携
災害広域相互協定の推進

筑紫野市

グループホーム

さわやかテラス二日市

〒818-0067 筑紫野市俗明院1丁目13番5号
TEL 092-918-0045 FAX 092-918-0255

小規模多機能型居宅介護施設

さわやか憩いの家二日市

〒818-0067 筑紫野市俗明院1丁目13番5号
TEL 092-918-3830 FAX 092-918-0255

大野城市

グループホーム

さわやかテラス大野城

〒816-0971 大野城市牛頭4丁目5-29
TEL 092-513-7511 FAX 092-513-7512

グループホーム

さわやかテラス大野城中央

〒816-0942 大野城市中央2丁目5番19号
TEL 092-501-0352 FAX 092-501-0323

小規模多機能型居宅介護施設

さわやか憩いの家大野城中央

〒816-0942 大野城市中央2丁目5番19号
TEL 092-501-0322 FAX 092-501-0323

春日市

グループホーム

さわやかテラス春日

〒816-0863 春日市須玖南1丁目91番地
TEL 092-588-3307 FAX 092-588-3308

小規模多機能型居宅介護施設

さわやか憩いの家春日

〒816-0863 春日市須玖南1丁目91番地
TEL 092-588-3531 FAX 092-588-3308

株式会社ウェルフェアネット本社

〒816-0864 春日市須玖北4丁目10番405
TEL 092-582-0757 FAX 092-582-0847

検索してね！

検索 さわやかテラス

